

様式第3号(第12条関係)

審議会等の会議の記録

会議の名称	第2回伊勢崎市水道事業経営戦略等検討委員会
開催日時	令和4年7月29日(金) 10時00分～11時40分
開催場所	伊勢崎市上下水道局 会議室
出席者氏名	〔委員〕 熊倉委員長、前田副委員長、宮田委員、加藤委員、中西委員、 相川委員、荻野委員、江原委員、都丸委員、細野委員 〔事務局〕 尾島上下水道局長、井野副局長兼総務課長、 柳澤上水道整備課長、中山浄水課長、大島上水道計画係長、 後藤工務係長、土屋総務係長、関野経理係長、 三上経理係長、菊池料金係長、堂前主査、南波主査、 清水主査、根岸主査
傍聴人数	0名
会議の議題	・現在の経営戦略と令和3年度までの実績について
会議資料の内容	・次第 ・伊勢崎市水道事業経営戦略等検討委員会 委員名簿 ・席次表 ・資料1「伊勢崎市調査年度別満足度・重要度順位、県内12市の水道料金比較」 ・資料2「現在の経営戦略と令和3年度までの実績」

会議における
議事の経過
及び発言の要旨

【第2回検討委員会】

1 開 会

2 議 題

・事務局から資料1「伊勢崎市調査年度別満足度・重要度順位、県内12市の水道料金比較」、資料2「現在の経営戦略と令和3年度までの実績」に基づき説明があった。

【質問・意見】

委員長：質問及び意見があればお願いしたい。

副委員長：浄水施設の耐震化率について、令和7年度まで耐震化率が変わらず、令和8年度に一気に上昇している理由は何か。

事務局：浄水施設は様々な要素が組み合わせて構築されており、その全ての要素が耐震化された後に耐震化済みとして計上する。全く耐震化されていないわけではなく、令和8年度の耐震化事業によって対象の浄水施設全てが耐震化となり、耐震化率に計上されている。浄水施設の耐震化に係る費用については配水池のような構造物を改修するものとは異なっているので、配水池の耐震化に比べると費用は抑えられている状態である。

委員：市の一般会計からの繰入金について、耐震化事業に対する一般会計からの出資金が令和6年度から大きく減少しているのは工事費が減少するのか、それとも繰入金が減って自己資金で賄うのか。

事務局：工事費の減少ではなく、繰入金が減少し自己資金で賄う必要がある。国が示す出資金の見直しが令和6年度に予定されており、出資金の制度が残り現在と同様の算出方法となった場合でも、繰入金が減少することとなる。

委員長：市の一般会計からの繰入金について、国の時限的な要素があって見通しが非常に不透明であることがわかった。今回の経営戦略の改訂の一つのポイントとなりそうだ。

委員：繰入金が減少することで財源が減ることになるが、別の財源でもって工事を行っていかねばならない。そうなると料金の見直しや安定的な収入の確保をするしかないと思う。

また、水道事業は水道料金収入が2か月に1度収入として入ってくる。流動比率について平成29

年度の200%程度となっているのはすごくいいと思う。100%を超えていれば確かに短期債務に対して支払い可能であることを示しているが、様々な事例を見ると200%を確保していくと安定した事業運営を行っていけると思えるので令和10年度に124%を目標としているが200%を目指してもよいと思う。

管路更新率については1.3%で進めれば77年で全ての管路を更新するペースと説明があったが、現在はそこまで数値が追いついていない。ただ、重要な管路から行っていることなどを示すことで市民の納得も得られるのではないかと感じる。

委員：料金を上げないよう、また上げ幅を少なくしよう、という姿勢が見えてよかった。

市民もいきなり水道料金が上がると言われると、何でも値上がっていくと思われるので、具体的に行っていることを説明し、負担してもらう内容がわかったほうが良い。細かく数字を出してもらうこともよいが、わかりやすく行うことを示せるとよいと思った。

委員長：確かに、令和2年度に市民の皆様の合意を得て水道料金改定を行えたわけだが、今後の耐震化や老朽化への対応や市民の重要度・満足度が共にトップであることを維持していくためには、最低でもこういう形で改定をせざるを得ないことを、非常にわかりやすい形で端的に説明する必要がある。

委員：令和6年度と令和10年度の料金改定経緯を教えてください。

副委員長：一度の料金改定で10%以上あげて経営を安定させることもできるが、市民の負担と不透明な社会情勢を鑑みて、一回の料金改定後の社会情勢や経営状況を踏まえて再度検討することとしたのが平成30年度策定の経営戦略となっている。

委員長：まとめると、平成30年度策定経営戦略の計画値と令和2年度に料金改定をした結果の数値が比べて示されていて、厳しく見ていた人口推計よりも伊勢崎市の人口減少率が少ない状況となっている。ただ、コロナ関連、ロシアのウクライナ侵略による物価高騰があり、繰入金が国の制度上令和

6年度から減少する状況となっている。

委員：令和2年度の料金改定が必要な事情は分かったが、どういう経営努力をしてきたかを上手に説明する必要がある。また、水道事業について親しみを持ってもらうことが大事だと思う。例えば、南地区が楽しみにしていた広瀬浄水場の桜の木が切れ塀が作られたことで楽しみがなくなってしまった。水道局は災害時に水を配ったりしていて、水のありがたみがわかるが、もっと目に見えてわかる形で努力があるとよいと思う。

委員：検討委員会を通じて、施設の老朽化や耐震化に対応する必要性をよく理解できた。きれいな水を確保していく上でも水道料金の値上げの必要性を市民にも分かりやすく説明をしていくことが必要だと思った。

委員長：今後の議論の中でどの程度の値上げの幅になりうるのか、令和2年度の料金改定による結果を周知し、親しみを市民にもってもらうために具体的な努力をし、アイデアを出し合いながら取り組んでいく必要がある。

委員：まず、家庭でよく使われている水道管の口径13mmと20mmの伊勢崎市の平均使用水量における料金が他市と比較して安くは見えないが、違いを教えてほしい。また、現在の管路の更新費用が大きいのはなぜか教えてほしい。

事務局：平均使用水量における他市との比較についてですが、水道料金については基本料金部分と使用した水量によって料金が変わる従量料金によって構成されていて、それぞれの差によって同じ水量を使用しても水道料金に差が出てきている。

委員長：13mmと20mmの口径別に基本料金と使用水量に対する水道料金の差の比較を分かりやすく示してほしい。

事務局：次に2番目のご質問ですが、平成半ばくらいまで管路の布設を早いペースで行っていたが、その後平成27年度くらいまで国からの通知により、法定耐用年数がまだ残っているが地震に対して弱い石綿管の更新を優先的に行っていた。現在は、法定耐用年数を過ぎた老朽管の更新率を1.3%にまで上げるために取り組んでいる。

	<p>委員：全てを理解するには時間がかかる。</p> <p>委員長：市民に数値をみて理解をしてもらえるよう、時間をかけて資料を用意する必要がある。</p> <p>委員：浄水場の見学時に、24時間体制でいつでも水が出るように努力をしていると感じた。大事な水が出るのが一番大切であり、もっとアピールをしていくことも必要だと思う。</p> <p>委員：老朽管の更新率1.3%とはどのくらいの距離になるのか。</p> <p>事務局：1.3%とは年間約18km、全体では約1400kmの管路がある。</p> <p>委員長：老朽管の更新率を年間1.3%というより、18kmという数字を示すほうが市民にとっても分かりやすい。</p> <p>委員：マンホールカードも人気があり、親しみをもつという意味で使える部分がある。</p> <p>事務局：マンホールカードは下水であるが、本市では作成はしていない。上下水道ともに何か市民に親しまれるものを作るという意味で参考とさせていただきたい。</p> <p>委員：資料の経営戦略の基本方針の中に「情報公開、お客さまとのコミュニケーションの充実」という政策があり、具体的にはSNSを有効活用するところがあるが、やっているのか。</p> <p>事務局：災害での緊急情報時、水の濁り発生時にはツイッターを使用している。コミュニケーションとして親しみをもってもらうためにも幅広く使いたい。</p> <p>委員：若い世代から祖父母世代に情報がつながることがあるので、活用してほしい。</p> <p>委員長：水道局自ら、市民の広報委員会的な立場で発信していく仕組みを作っていくほうがよい。</p> <p>委員：日本水道協会でも下水のマンホールカードに代わるものを検討している。</p> <p>例えば浄水場の桜の木を切らざるをえない場合、情報を出し、その理由を丁寧に伝えていくことで納得してもらえる。水道料金に関しても、情報を出すことにとどまらず、伝えて理解してもらえることが大切であり、料金改定も市民の方に理解していただけるような周知方法を検討委員から意見をもらって考えていくことが必要だと感じた。</p>
--	--

副委員長：管路の更新について目標達成できるかという課題もある中で、料金改定についてシミュレーションをせずに上げるというのではなく、常に審議会や検討委員会などを行い、市民の方に広報だけではなく接点をもてる方法でPRし、理解を得ながら行うことが大切である。水はSDGsの中心的な存在で、今後の温度上昇により50億人が水を飲めなくなる可能性がある。日本は淡水が豊富にあり、水は大切であるが、環境に配慮する生活様式を考えながらたくさん使ってもよいということの子供たちへの教育の中でも教えていくことで、水道局への理解も深まる。親しみをもてるようなイベントを企画していくことも重要である。

委員長：前回の水道事業経営戦略から3年経過し次の改訂版に向け、市民とのコミュニケーションの大切さや日常的な説明、お金の使途方法や有効活用について全体をみていくという原点を、委員が議論の中で考えながら確認することができた。

また、料金改定について計画的に進めていかざるを得ないこと、管路の更新や耐震化にもさらに力を入れていかなければならないこと、そして、一番疎かになっていた市民とのコミュニケーションを密にとることの大切さを重視し、今回の経営戦略の改訂のポイントとして、今回の会議において議論していきたい。

委員：買っている水もあるのか。

委員長：地下水から市が取水している水が主だが、群馬県企業局から県水として買っている水がある。お金の問題もあるので、次回分かる資料を用意してもらいたい。

3 その他

事務局：次回の検討委員会では、今後の給水人口の見通しに基づいた料金改定率等について審議していただく予定となっている。

委員長：今日議論となった市民とのコミュニケーションも議事に加えてもらいたい。

4 閉会